

宝子の聖会の紹介

山口県自然観察指導員協議会 機関誌

みどりの風

山口県自然観察指導員協議会 機関誌

【十会・四期務重へ共会田大・二ツ主日18日7月員会に聖会地を】

山口県自然観察指導員協議会 機関誌

山口自然観察会 No.115

2022年 7月(夏号)



真夏の海

山口県自然観察指導員協議会 機関誌

私たちは地球生命体の永遠なるいのちを願って活動しています

山口県自然観察指導員協議会 機関誌

今後の会議の予定

第4回役員会 日 時 令和4年9月4日(日) 10時～下松中央公民館

令和4年度中国地区自然観察指導員交流会

日 時 令和4年9月24(土)～25(日)

場 所 広島県山県郡北広島町・安芸太田町

【参加希望の会員は7月31日までに、大田会長へ連絡願います】

～詳細は本誌P2をご覧ください～

定時総会 ……詳細は秋号(116号)で紹介します。

日 時 令和4年11月19日(土)～20日(日) 13:00

場 所 山口市阿東嘉年下 十種ヶ峰青少年自然の家

会員の皆様へ 会費納入と原稿依頼のお願いについて

いつも「みどりの風」をご愛読いただき有難うございます。

さて、夏号に会費未納のお知らせが入っていた方は、同封の振込用紙を使って早めの納入をお願いします。厳しい会の運営をご理解ください。

なお、行き違い等がありましたら、お詫びいたします。

原稿は、必ず B5版 で作成してください。また、写真一枚に、コメントを付けて送付していただいてもけっこうです。

E-mail taka.ueda@snow.plala.or.jp

表紙の写真

エヒメアヤメ～防府市 西浦自生地 南限地

エヒメアヤメは、中国東北部から朝鮮半島にかけて分布する。

20年前は少なかったが、現在は保存会による草刈りなどで
1,700株に増えている。(会長 大田和彦)

令和4年度中国地区自然観察指導員交流会 開催要項 (第1報)

令和4年度指導員交流会は、「生物多様性保全」をテーマとして、西中国山地で行われている生物多様性保全と地域課題解決の取り組みを見ていただきます。

各県指導員の皆様との再会をとっても楽しみにしています。また、指導員に限らず趣旨にご賛同いただける方もぜひご参加ください。

1 開催日 2022 (令和4) 年9月24日 (土) ~ 25日 (日)

2 場所 広島県山県郡北広島町・安芸太田町

【観察場所】霧ヶ谷湿原、雲月山

【宿泊】いこいの村ひろしま (広島県山県郡安芸太田町大字松原1番地1)

3 内容

①自然再生推進法に基づき湿原を再生した「八幡湿原自然再生事業」の紹介、見学

講師 和田秀次 場所: 霧ヶ谷湿原 (北広島町東八幡原)

②NPO 法人西中国山地自然史研究会が取り組む、地域課題の解決も目指した生物多様性保全事業

講師 河野弥生氏 (NPO 法人西中国山地自然史研究会) 場所: 座学

③西中国山地の希少生物とその保全

講師 上野吉雄氏 (NPO 法人西中国山地自然史研究会理事長) 場所: 座学

④地域住民と都市住民が協力して行う山焼きによって守られている雲月山草原の観察

ガイド: 西中国山地自然史研究会 場所: 雲月山 (北広島町土橋)

4 日程 (予定)

24日 (土) 午後

●八幡湿原自然再生事業の紹介

・芸北 高原の自然館に集合、霧ヶ谷湿原で現地見学

・いこいの村に移動して座学

25日 (日) 午前

●雲月山の観察

・ガイドの案内で雲月山を観察

5 参加費

12,000円予定 (8,800円[1泊2食]+2日目弁当代+その他費用)

6 申込方法

各県で取りまとめのうえ、氏名・性別・住所・年齢を8月15日 (月) までにご連絡をお願いします。

7月中に見込みの人数がわかれば、大変助かります。

連絡先 広島県自然観察指導員連絡会

和田秀次 (携帯: 090-9733-8023、E-mail: shuji.wada@gmail.com)

7 主催等

主催 広島県自然観察指導員連絡会、協力 認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会



第3支部 活動報告 エヒメアヤメ観察会

令和4年4月10日(日)

増野和幸

4月10日(日)、朝から心地よい暖かさの晴天の日、防府市西浦にある国の天然記念物「エヒメアヤメ自生南限地」を訪れました。昨年は一般公開の最終日の前日に当たり、エヒメアヤメの開花時期の最盛期を過ぎていました。今年は好機を逃さないようにと、たびたび公開日のチェックをしたり、市教委に問い合わせたりしました。その甲斐あってか、今年は公開二日目に当たり、花は見頃を迎えていました。昨年に引き続き、保存会の丸山一生会長さんの歓迎を受け、説明を聴きながらの観察会となりました。昨年も参加された上重一枝さんが、十数年前に自分が発見した花株の健在ぶりを、丸山さんから聞いておられました。また、葉がエヒメアヤメによく似た他の植物との見分け方などの説明を聞いている時、伊藤香織さんが小さなツボミを付けた未知の花株を発見。そのツボミがはじけるような音を立てて、目の前で開花したのは、一堂びっくりしました。伊藤さんは、来年以降も自分が発見した花株の推移を見守るために、毎年、観察にやって来なければなりませんね。一般客の方も多く、さかんにカメラのシャッターを切っていました。

エヒメアヤメは茎の長さが約10センチ、花の大きさが5センチほどの小さな青紫色のアヤメ。朝鮮半島、中国東北部など、寒い地方に多い北方系の植物です。防府市の西浦は自生の南限地となっています。県内には豊浦町にも自生地がありますが、生育の状態はあまりよくないようです。保存会の皆さんの草刈りや地道なお世話が、こうした野生植物の保全には必要なのでしょう。観察会に参加された皆さん、お疲れ様でした。参加者は8名でした。



(左：丸山会長さんの説明を聞く参加者)



(右：開花したエヒメアヤメの株)

寂地山のカタクリ保全活動

山村 満昭（周南市）

令和4年4月23日、山口県自然観察指導員協議会主催の寂地山のカタクリ保全活動に長女（小6）と参加しました。

春と秋の年2回の行われているこの活動に、大田会長さんから誘われて参加するのは今回で3回目、これまでは3～5名と少人数でしたが、10名と多くの方が参加していました。

長女には、自然とのふれあいや、こうした自然環境保全活動に地道に取り組まれている方々がいらっしゃることを知ってもらいたくて昨年の秋に引き続き参加させました。

朝9時過ぎに寂地山のキャンプ場を車で出発、途中の山道を遮る倒木を参加者の皆さんの力を合わせ、何とか通り抜けて車でいけるところまで移動しました。その後、日頃運動不足で体がなまりがちの自分にとっては心が折れそうになる急な登山道を、参加者の皆さんとおしゃべりしたり、山野草の花に心癒されたり、途中湧水を飲んだりして休み休みしながら登ること約1時間、保全活動をするカタクリの自生地に着きました。

作業は主に、登山道の利用者がカタクリの自生地内に入らないように気を付けてもらうため、枯木を使って歩道との境目を分かりやすくしました。

当日は、雨も心配されましたがそういうこともなく、約2時間長女とともに作業にいそしみました。

長女は飽きっぽい性格のため最後まで皆さんと作業はできませんでしたが、長女の参加した感想は「いろいろな人と知り合えてうれしかった。カタクリの花がきれいだった。枯れた木を見つけたのが難しかった。湧水が美味しかった。」とのことであり、とりあえず自分の考えていた目的は果たせたのではないかと思います。

こうした活動は、大田会長さんから聞くまで自分も正直言って知らなかったですが、地道に続けてこられた山口県自然観察指導員会をはじめとする関係者の皆様に敬意を表したいと思います。



セミナーパークで SDGs を学ぼう

未来につなぐ環境学習講座

「海洋ごみが私たちに 教えてくれること」

SDGsに
関心のある方や
若い世代の方
ぜひご参加
ください！

海洋ごみには
どんなもの
がある？

海のごみは
どこから
来るの？

令和4年

8月3日 水 13:00～15:00

参加無料

【会場】 山口県セミナーパーク 研修室 101 (山口市秋穂二島1062)

【対象者】 一般県民 (中学生以上) 30人程度 (応募者多数の場合は抽選)

【講師】 水産大学校 助教 嶋田陽一氏
海ごみゼロ維新プロジェクト

【内容】 海洋ごみはどこから来るのか?! 海洋研究の専門家によるお話
や、山口県の海洋ごみ問題を周知し、アクションを起こしてもら
うために活動する団体の発表を通して、私たちに今できることを
考えます。

【申込締切】 7月14日 (木) ※申込方法は裏面をご覧ください。

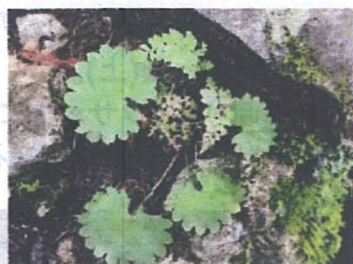
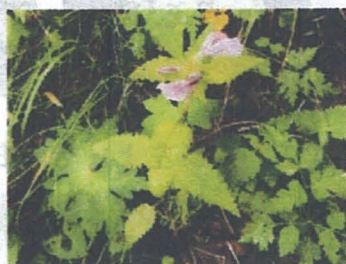
※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、内容を変更・中止する場合があります。

【主催】 公益財団法人山口県ひとづくり財団

山梨県北岳の植物と自然(その2)

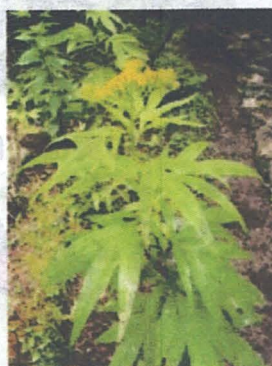
珍しい植物があった。
タケシマランの実である。
これによく似たオオバタ
タケシマランは葉の基部が
心形で茎を抱くが、写真
のものは心形では無く、
茎を抱いているようにも
見えないのでタケシマ
ランで良いと思う。

上はトモエシオガ
マ。次は後でクロクモ
ソウだと分かった
(上)。



10:10 に白根御池小屋に着いた。標高 2236m。ほぼ 5 合目あたり。北
岳には何合目という表示板が全くない。ハンゴンソウが沢山ある(左下)。

ここで記念写真
を撮った。山頂が
雨で良い写真が
撮れない場合が
あるからである
(右)。次はセン
ジュガンピ。その右
はカイフウロ。



次はヒメコゴ
メグサ(次のペ
ージ左上)。
その右はハク
サンフウロ。



草スベリという急坂の手前にヒロハカツラが沢山ある沢がある。大雨で土砂が大量に流されてできたガレ場のような。ヒロハカツラも大木はなく幼木が多い。



そのすぐ上にマルバタケブキの群生地があった(上)。



休憩の時リュックサックに蝶が止まった。ベニヒカゲである(次のページ左上)。その右はタカネナデシコ。

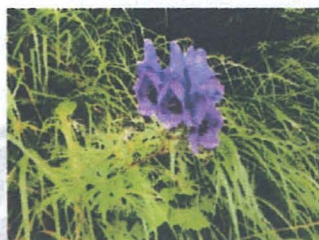


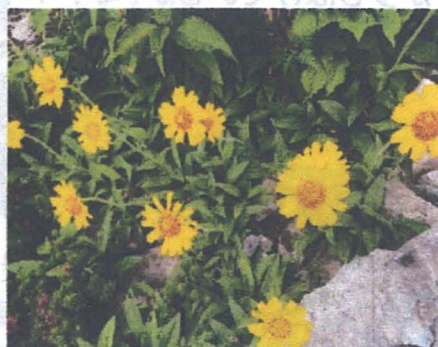
次はタカネグナイフウロだと思う。写真だけ

ではグンナイフウロとの区別は難しい。ハリブキノの実も前にも掲載したが、余りにも見事な物が見つかったので再度掲載する(その右)。



次は「は」はホソバトリカブト。その右はタカネヨモギ。





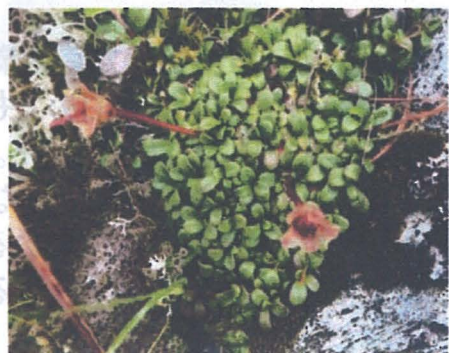
ウサギギクの実(上)と花(その右)。花は直径が4~5cmあり、目立つ。
雲に隠れたり出たりする鳳凰三山が短い間に顔を出した。一番高い尖
ったところは観音岳(2840, 7m)だと思う。



ハイマツが出てきた。山頂は近い。その右はコスギラン(シダ)。

14:05 小太朗分岐に着いた。標高は2840mである。先頭とは差が付
いたので焦らず、自分たちのペースで3人が登った。既に森林限界を超
え、背の高い木は無い。岩と土と背の低い植物のみの世界となっている。
ガスが出てきて視界も良くない。

次はイワウメの花後。その右はツシマギキョウ。



ピントが少しぼけているが、ミヤマミミナグサ。その右はタカネシオガマ。



15:15 や

っと肩の小屋についた(左)。私達3人が最後に着いた。

肩の小屋の東側の下の斜面は狭い範囲に沢山の植物がある

お花畑になっている。次はハハコヨモギ(右)。

次はバラ科のチョウノスケソウ(下左)の花後。花を見たかった。



次はタカネビランジだと思(右)。

肩の小屋は定員を半分にしておいて予約を受け付けたと聞いた。数日前には電話でコロナの感染拡大でキャンセルがか



なりあるように聞いていた。私はそれで、定員の4分の1くらいで相当空いていると予測していた。しかし、寝るところに案内されると、一人が幅1mの間に頭の部分に高さ70cmくらいのアクリル板で三方を囲った状態で、かなり密集している感じだった。これで、定員の半分と言うことは、通常の年には一人50cm幅しか無い状態で雑魚寝をして泊めているということになる。そんなものかとも思った。私にも経験が無い訳では無い。富士山の山小屋でもそうだったし、白馬大池の山荘もそんなもんだった。

私の推測では南アルプス市が経営する北岳山荘などがこの日から休業になったので、北岳山荘に泊まる予定の客が、民間経営の肩の小屋に泊めてもらえないかと相談して、肩の小屋がこれを受け入れた結果ではないかと思った。コロナに感染しはしないかと不安はあったが、ここまで来るともう腹をくるしかない。同行者も腹を決めたようだった。同宿者の他の人もコロナを特別心配しているようには見えなかった。ここまで来ると下山するには時間も体力も無いので、なるようになれという気持ちだったのかもしれない。

後日、家に帰った後1週間以内には全員PCR検査を受け、全員陰性だったので、あれで大丈夫なのかとも思った。肩の小屋はあれで十分だと思っていたようである。その後、肩の小屋が今年度の営業を打ち切るまで、コロナに感染したという報道は耳にしていない。そればかりか、全国の山小屋のほとんどは、今年は定員を半分に、宿泊を受け入れているところが多い。にもかかわらず、山小屋で感染したというニュースを新聞でもテレビでも耳にしていない。山に登る人間はコロナにはかかりにくいのだろうか。それとも、かかっても感染経路不明の中に扱われていて、山小屋での感染と言うことが明確になっていないだけなのだろうか。まさかとも思うが、フィトンチッド(phytoncide=殺菌)の多い自然の良いところではコロナのウィルスが死滅してしまうということはないだろうか。これは今のところ私(永井)の仮説でしかないが。

肩の小屋は、宿代は8500円くらいで安い、水が500ccで100円、トイレが一回で100円。結局はかなり取られるので、北岳山荘等に比べて安いとは言えない。現在増築中で新しい小屋ができるともっとスペースに余裕があるかもしれないが、今のところ寝るだけの場所と言える。

集まって話をするようなスペースがないので、早く寝ることにした。私は6:30には眠った。午前2時頃には目が覚めた。懐中電気を付けて出発の準備をしている人もいた。北岳を越え間ノ岳にも行って帰ろうとすれば早くでなければならぬので、多分そういう人たちだろう。4:30分頃には私達も起きて5:00には朝食を取り、5:30には雨の中を出発した。北岳の山頂に着いたのは6:20頃だったと思う。記念写真を撮った。



来た時とは反対の南の方へ下って行った。イワオウギ(マメ科)が有った。花は終わりにかけていて、一部は実になっている(上)ためではないかと思う(次のページ左上)



令和4年度 第3回役員会議事録

開催日時・場所

日時 令和4年6月5日(日) 10:00～11:30

場所 下松市中央公民館(ほしらんどくだまつ)交流室3

・出席 7名(黒田、大田、永井、松原、蔵田、小林、植田)

議事 ①令和5年度定時総会について

令和4年11月19日(土)～20日(日)

十種ヶ峰少年自然の家

19日・総会 13:00～

・講演 14:00～伊良尾山について

・観察会 15:00～伊良尾山

20日・十種ヶ峰登山 8:00～12:00

②中国五県交流会(広島)について

9月24日(土)～25日(日) 深入山いこいの村【詳細:7月号で】

③「みどりの風」編集会議 : 6月15日原稿締め切り

○その他

・6月26日(日)カタツムリ観察会 10:00 周東町極楽寺集合

周東町上久原 二井寺山 参加申込は増野第3支部長へ連絡

・会費未納者について半数近く未納者がある。7月の機関誌で督促、振込用紙送付。

・4月、5月の事業報告

寂地山登山道整備 4月23日、10人

小五郎山登山道整備とヤマシャクヤク調査 5月3日、7人

ギブチョウ観察会 3月29日、4人

《 編集後記 》

夏号をお届けします。県内の新型コロナ感染者の方は減少しつつあるようですが、外国人観光客や国内の旅行等が緩和されることになり、人の行き来が開始されますと、再び増加に向かう可能性があります。十分気を付けてください。

秋(9月下旬)には延期されていましたが中国五県交流会が、広島県北広島市・安芸太田町で開催の予定です。旅行と研修を兼ねて計画されてはいかがでしょうか。

蒸し暑い日々が続きますが、水分補給を小まめにとって梅雨から夏を過ごしましょう。(U)

山口県自然観察指導員協議会機関誌
＜みどりの風＞

■発行 山口県自然観察指導員協議会

会長 大田 和彦

〒744-0043 下松市東陽 2-2-5

Tel(Fax)0833-46-0103

■機関誌編集長 植田 高弘

〒759-6603 下関市安岡町 8-14-21

Tel(Fax)083-258-2706